



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2024.11-12

No.467

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O





羽に魅せられて

菱沼 一充(白岡市)

私が野鳥の羽を集めるきっかけとなったのは、日本野鳥の会本部の安西さんの講演会だったと思います。そのとき、見せていただいたオシドリ銀杏羽、ハリオアマツバメの尾羽を今でも鮮明に思い出します。

●羽とは

羽は鳥類の体を覆う羽毛や飛ぶための器官のことで、また、羽根と記載される場合もありますが、1枚の羽そのものを指す場合や羽根ペンなどの加工品をそのように記述しているようです。鳥類学においては両者を区別していないとのこと。ここでは、“羽”と表記することにします。

羽は大きく区別して、皆さんが羽といわれて思い浮かぶような正羽と羽毛布団に使われている綿羽(ダウン)があります。前者が羽収集の対象となると思います。正羽は生えている場所によって、翼を構成する風切や雨覆、尾を構成する尾羽というようにそれぞれ名前が付けられています。羽の名称と生えている場所は野鳥図鑑や羽図鑑の巻頭に記載されているのでそれを参照してください。

●羽の構造

次に正羽の構造を見てみましょう。正羽には中心に羽軸と呼ばれる固い芯があります。その両側にある、薄い板状の部分を羽弁と呼びます。羽弁はさらに羽枝と小羽枝で構成されています(写真1)。小羽枝には鉤状の突起(鉤構造)があり、隣の小羽枝と絡みあって板状になっています。この突起によりマジックテープのようにくっついたり剥がしたりすることが出来ます。羽弁の無い羽は半綿羽(大部分の体羽)と呼ばれています。

羽の形状はその役割によって異なります。飛翔に必要な羽で最も大きい風切では翼先端に近い方の羽弁の面積は小さく、内側が大きくなっています。小さい方を外弁、大きい方を内

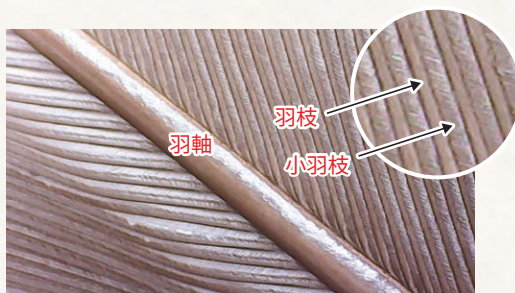


写真1 ハイタカの羽の構造

弁と呼びます。面積の差は外側の初列風切が大きく、内側にくにつれて小さくなります(写真2)。また、初列風切には飛行機のプロペラのようにねじれ(ピッチ)がついており、翼を打下ろした場合、前に進もうとする力(推力)が発生します。次列風切にはほとんどねじれがなく、主に体を浮き上がらせる力(揚力)が発生します。風切を手元から地面に落とすと、初列風切はヘリコプターのメイン・ローターのように回転しながら落ちていくのに対して、次列風切は木の葉のように落ちていくのはこのためです。



写真2 風切における外弁と内弁の形状

尾羽の外弁と内弁の面積は、概ね風切と同じような傾向があります。また、羽軸は外側にいくにつれて湾曲していく傾向があります。尾羽の役目は揚力と飛翔時の方向転換なので、初列風切のようなねじれはありません。

●羽の色について

私たちが羽を集めたいと思うのは、その色

彩と形状の美しさからだと思います。ヨーロッパの貴婦人達の帽子の装飾やアメリカ先住民の髪飾りがいい事例です。哺乳類が茶色や黒などの地味な色なのに比べて、鳥たちはなぜきれいな色をしているのでしょうか？

鳥類が色および紫外線を識別できる(4色性)のに対して、哺乳類は恐竜たちが跋扈する時代に、夜行性を余儀なくされたために色を識別する能力を失ったためと言われています(2色性)。しかし、人と旧世界霊長類(狭鼻類)だけが奇跡的に色のある世界を取り戻すことができました(3色性)。

鳥のカラフルな色彩は色素によるものと、構造色といわれる微細な組織構造によるものに大別されます(写真3)。色素には黒や褐色などのユーメラニン、赤色系のフェオメラニン、赤や黄色などのカロテノイド、緑色のツラコバジン(エボシドリのみ)があります。メラニンは体内で生成することが出来ますが、カロテノイドは食物由来によるものとされています。青色は構造色によるとされており、色素と構造色の組み合わせにより様々な色を発色することができます。



写真3 色素(オレンジ)と構造色(青色)

構造色は入射した光(太陽光)が微細な組織による干渉作用により、ある波長が強まることで発色すると言われています。構造色にはメラニンが関与しているとされ、アルビノのようなメラニンのない個体では構造色も失うことも知られています。

メラニンは羽の強度にも関与しており、メラニンにより羽の耐摩耗性が向上することが知られています。多くの種で風切が黒いのはそのためです。一方、カロテノイドによる発色は劣化

しやすいため、採取してから年月がたつと退色していきます。紫外線や空気になるべく接しないような保管方法が望ましいと思います。それに対し構造色はメラニンと微細構造によるため退色することはありません。

● 換羽について

羽は体の保護と飛翔および繁殖において重要な器官となります。羽が損傷することにより、これらの機能において重大な影響を及ぼします。羽はケラチンという透明なタンパク質でできており、死んだ組織のため次第に劣化していきます。そのため、羽繕いや水浴びといったような日頃の手入れが必要となります。手入れを十分に行っていても摩耗や事故による損傷は避けられません。非繁殖期はカラフルな色彩や飾り羽は不必要となります。そこで、鳥は定期的または必要に応じて換羽を行います。

換羽の時期は種類により異なりますが、概ね繁殖後の活動が一番不活発になる時期となります。そこで、8月から9月ごろが、羽を拾う機会が多くなります。採餌に飛翔する必要の無い場合はほとんどの羽が短い期間に換羽しますが、そうでない場合は1枚ずつ間隔を空けて換羽します。猛禽類は数年かけて風切の換羽を行う場合もあります。

鳥の種類により、年に数回換羽する場合があります。カモなどのエクリプスから繁殖羽への変化は一部の羽の換羽(部分換羽)によるものです。また、ノビタキやアトリなどの夏羽への変化は換羽で無く、羽の摩耗によるものです。

● 羽を拾う

羽を拾うためには、家を出てフィールドにでなくてはなりません。散歩の途中やバードウォッチングの最中に偶然見つけることが多いと思います。羽を拾うことを目的に出かける場合には比較的見つけやすい場所があるので、そこを丹念に探すのが良いと思います。

例えば、①干潟などで鳥が休んでいる場所やその波打ち際、②カモなどが採餌している池の畔や地面、③公園などで吹きだまりになっている場所(倒木やベンチの下)などです。

アオバズクの営巣している木の周辺では、

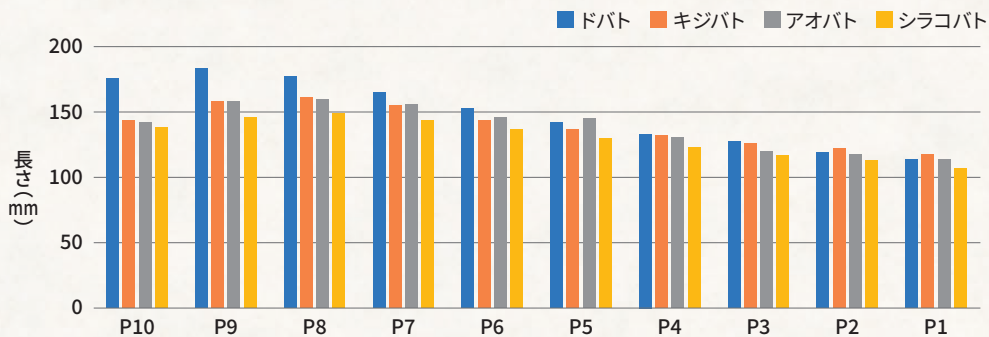


図 ハトの初列風切(P)の長さ

昆虫の食べ残し以外に、羽繕いした際に抜けた羽や、餌となった小鳥の羽が落ちている場合があります。私もカワラヒワやツバメの羽を拾ったことがありました。

猛禽類の食痕や事故等で落鳥した死体を見つけた場合は、普段は拾えない小さな羽を拾うことができます。また、単独の羽では、識別困難な羽を同定することが可能です。ただし、死因がわからず感染症によるものと考えられる場合は拾うことは諦めた方が良いでしょう。剥製にしたい場合は、届け出が必要な都道府県もあります。

●羽の同定

バードウォッチングで見た鳥の名前を知りたいと思うように、拾った羽の鳥の名前、どこの羽か知りたいと思うでしょう。これが、観察した鳥の名前を知るよりかなり難しいのです。1995年に初めて笹川先生の羽根図鑑が発行されて以来、いくつかの羽(羽根)図鑑が刊行されたことにより、ある程度の同定はできるようになりましたが、どうしても同定できない羽がでています。特に、1枚だけ拾った特徴の無い羽はお手上げです。いつかわかることを期待して大事にとっておきましょう。鳥の識別でもそうですが、羽も拾った場所、季節、環境等の情報が同定には必要です。私も拾ったまま記録せずに、そのまましまいでんで何の羽かわからない物が多々あります。

羽の同定で基本的な知識は鳥の大きさと羽の長さです。物差し鳥は知っている方もいるかと思いますが、鳥の全長と羽の長さの関係を覚えておくとうまいかと思ひます。羽の構造の

ところで述べたように、大まかな羽の位置、例えば風切か尾羽かの判断が必要です。特徴的な白斑や模様があるとき、同定は容易となります。詳細は羽図鑑で参照してください。

ハトの羽は比較的拾いやすいので、同定について詳しく述べてみます。ハトの羽は触った感触が独特で、これはハトの羽だとわかり易いと思ひます。問題はこの風切は何バトのものかということだと思ひます。図で初列風切の長さを比較していますが、個体差を考えると長さはほぼ同じなため、長さからの同定は困難です。

シラコバトを除いて特徴的な模様も無く褐色を帯びています。そこで、それぞれ風切の先端をよく確認してみましょう。写真4を見てわかるようにドバトは全体が褐色ですが、キジバトは薄茶色の縁取り、アオバトは構造色による緑色が見られます。風切と一緒に尾羽や特徴的な羽を拾った場合は、ここまで必要無いかと思ひます。



写真4 ハトの風切先端の違い

参考資料

笹川昭雄.1995.日本の野鳥 羽根図鑑.世界文化社
高田勝、叶内拓也.2008.野鳥の羽ハンドブック.文一総合出版
藤井幹.2020.羽根識別マニュアル.文一総合出版
吉岡伸也.2007.鳥の羽の構造色とその分類. Bird Research News Vol.4 No.2: 2-3

2024年秋 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉 調査部

日時 2024年9月7日 9:33~11:20

場所 さいたま市 大久保農耕地

天候 晴

〈調査結果〉

	A区	B区	As区	A'区
タシギ	7	5		3
クサシギ		4		
タシギ属不明種		2		

関東甲信越地方は高気圧に覆われ、さいたま市は午前中から30度を超え、午後には猛暑日となりましたが、18名もの協力が得られました。ありがとうございました。

大部分の田は稲刈りが終わっており、刈り終わった田は台風10号による長雨の影響で、湿っていました。しかし、前日からの猛暑のためか、観察されたシギ・チドリ類は2種21羽(タシギ属不明種は種数に入れない)で、ムナグロは観察されませんでした。2007年以来17年ぶりにクサシギが観察されました。シギ・チドリ類の数が少ないのは、昨年同様に暑い8月になったことが関係しているのかもしれませんが。

〈秋のカウント結果〉

年	2020	2021	2022	2023	2024
調査日	9/21	9/20	9/11	9/9	9/7
天候	曇	快晴	晴	雨	晴
1 ムナグロ	1	3	37	1	
2 タシギ	11	1	3	10	15
3 アオアシシギ	2				
4 クサシギ					4
タシギ属不明種	20	1	3	4	2
合計	34	5	43	15	21

上の表は秋のカウント結果のうち、最近の5年間でまとめたものです。それ以前の記録は「しらこぼと」2012年12月号(No.344)と、2023年7-8月号(No.459)をご覧ください。

※表中の「タシギ属不明種」はタシギ以外のタシギ属のため、種数には入れませんでした。

(石井 智)

野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

●カラシラサギ

英名 Chinese Egret

学名 *Egretta eulophotes*

分類 ペリカン目サギ科コサギ属



早川秀則さん(未入会の方)より、2024年7月7日から9日に、さいたま市西区の指扇中学校西側、滝沼川に隣接した遊水池で撮影された1羽のシラサギ類の写真(上掲ほか19枚)が寄せられました。当委員会は写真を検討した結果、このシラサギ類を、夏羽(生殖羽)から冬羽(非生殖羽)に移行途中のカラシラサギ成鳥と同定したので発表します。

カラシラサギは、全身が白く趾に黄色味があることからコサギに酷似しますが、嘴が黒くないことで識別が可能です。(ただし、コサギ幼鳥の下嘴は灰白色なので注意が必要。)

そのうえで、寄せられた写真を見てみると、

①冠羽がほとんどない、

②下嘴が橙褐色で上嘴が黒みを帯び、

眼先が緑黄色である、

③脛から跗蹠にかけての部分が

真っ黒ではなく緑褐色である、

④趾が黄緑色である、

などの点が読み取れ、夏羽から冬羽に移行途中の個体と判断しました。

以上により当委員会は、埼玉県野鳥リストに、351種目の野鳥としてカラシラサギを追加することにします。

なお、本種は「レッドデータブック」(環境省)では「情報不足」とされる種であり、「ボン条約」付属書I掲載種でもあります。



野鳥情報

越谷市 瓦曽根溜井

◇3月18日、アメリカヒドリ♂1。普段フィールドとしている河川敷で観察していたところ、違和感のあるヒドリガモがいた。よく見てみると、顔に緑の模様があり。とりあえず写真に収めておいた。詳しい知人に尋ねたところ「アメリカヒドリ」であり、見られるのは稀であるとのこと。珍しいものが見られたんだなあ感慨深い気持ちになった(中村達郎)。(編集部 表紙の写真と同個体のようです)

伊奈町 埼玉県立がんセンター

～上尾鷹の台高等学校周辺

◇3月19日、モズ、シジュウカラ18、ウグイス、コゲラ。伊奈氏屋敷跡周辺でエナガ20、メジロ28、カケス9、ツグミ16、オオタカ、アオジ、カシラダカ18、ホオジロ12、オナガ8。丸山湿地でシロハラ7。調整池周辺でカルガモ20、スズメ48、クサシギ3、ヒバリ13、キジ♂4♀1、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ジョウビタキ♂1♀3、オオバン8、アカハラ、ノスリ、ヒクイナ、タヒバリ、ツバメ13、オオジュリン、コサギ、ダイサギ、コガモ18、カワセミ3、コチドリ6、カイツブリ6、バン2(村越百合子)。

蓮田市 西城沼公園とその周辺

◇3月23日、メジロ11がケヤキの新芽を採餌していた。他にカルガモ、コサギ、コゲラ、アカゲラ、モズ、カケス、オナガ、シジュウカラ、ウグイス、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、カワラヒワなど。4月3日、小雨の中、銀杏の樹の天辺にシメ2とツグミ1。4月6日ツバメ1、上空飛翔。ここでの今季初認。4月20日午前8時15分、ヒヨドリ100±が鳴きながら北に向かって飛んで行った。北方への渡りであろう。他にコジュケイ、カルガモ、カワウ、ダイサギ、オオタカ、カワセミ、コゲラ、カケス、オナガ、シジュウカラ、ウグイス、メジロ、ハクセキレイなど(長嶋宏之)。

草加市柿木町(53396645)

◇3月24日、ホオアカ5。4月13日、ムナグロ2、今季初認。4月27日、ムナグロ7。4月29日、

ムナグロ35、コチドリ1(鈴木 功)。

さいたま市岩槻区掛

◇3月27日、電線にとまる約50のハシボソガラスの1羽が両脚で電線にぶら下がり、逆さになっていた。その後、その個体はクルミ?をくわえている別個体を追いかけてまわしたが、両者とも遊びのようだった。4月20日、ダイサギ10の群れの中にチュウサギ1。4月24日、水の入り始めた水田でムナグロ30+、タシギ1、コチドリ1(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区黒谷

◇3月27日、和土住宅公園の池でヒドリガモ15、カルガモ1。池底の地面が出ている所にクサシギ1、コチドリ7、キセキレイ1。上空をツバメ2が飛翔(鈴木紀雄)。

さいたま市緑区

緑のトラスト保全第1号地周辺

◇3月28日、ヒヨドリ、ツグミ、ホオジロ、ジョウビタキ、オオタカ、シメ、メジロ、シジュウカラ、コゲラ、エナガ、モズ、カワラヒワ、カルガモ、カケス、ウグイス、ツバメ、アオジ、シロハラ、コジュケイ、カシラダカ18、ダイサギ、ヤマガラ、上空にカワウ。

◇4月25日、ウグイス、メジロ、ツグミ、シジュウカラ、ホオジロ、シロハラ、コジュケイ、シメ、アオジ、カケス、エナガ、オオタカ、コゲラ、ツバメ、アオサギ、モズ、ハクセキレイ、カワセミ、カワラヒワ、ヒメアマツバメ、カワウ、ダイサギ、カルガモ。キビタキがあちこちで囀っていた。遠くからホトギスの声(村越百合子)。

さいたま市岩槻区 岩槻文化公園

◇3月30日、シメ20+が林床で採餌。カケス、オナガ。アカゲラ♂が採餌に夢中で数m真下を通っても平気。ホオジロ3。ツバメ5飛翔。ウグイスがあちこちで囀る。4月4日、アカゲラ♀飛翔。カケスがオオタカの声まねていた。アオジの囀り。アカハラ、ツグミのぐぜり。ヒクイナの声響く。電波塔にオオタカ成鳥1、ハンノキにオオタカ若鳥1、オオジュリン冬羽数羽。4月4日、カケス、オナガ、アオジ、トビ、ツバメなど。アカハラが枝にとまる。高空をサシバ1が舞う。トビも飛翔、ヒクイナの声。4月8日、カケス、ツバメ、シメ、ヒクイナ2、アカゲラ、アオジ、キジ、コジュケイの声。グラ

ウンドにツグミ20+、カワラヒワ。4月10日、電波塔にオオタカ成鳥1。ヒクイナ2、シロハラ、ツグミ、ウグイス、アオジ、カケス、オナガ、キジ、コジュケイ、イソシギ、ヒドリガモ、コガモ、カルガモ、シジュウカラ、コゲラ、メジロ、モズ、ハクセキレイなど。4月12日、アカゲラ♀が芝生広場で落ちている朽木に降りて餌探し。シメ10が木の新芽にいるところをハイタカ通過、シメが飛び散る。シロハラの囀り。4月15日、林床でアカハラがゴソゴソと採餌。ホオジロの囀り。4月16日、遠くからサンショウクイの声。オオタカ飛ぶ。林の奥からオオルリの囀り、ツグミのぐぜり。シロハラが飛び、シメ1が水浴び。4月20日、上空よりサンショウクイの声。林からエゾムシクイ、センダイムシクイ、アカハラ、アオジの囀り。ヒクイナの声がサッカーコート脇の元荒川の岸辺辺りから聞こえてくる。ツグミ、カケス、シメ。(鈴木紀雄)。

東秩父村 皇鈴山展望台(54390182)

◇3月31日、トビ、サシバ(今季初認)、ノスリ、コゲラ、カケス、ヤマガラ、シジュウカラ、ウグイス、メジロ、アオジ(嶋田富夫)。

横瀬町 埼玉県民の森

◇4月1日、アトリ♀1(下写真)、オオマシコ♂3♀1、マヒワ50+(鈴木 功)。



さいたま市南区 笹目川

◇4月2日、瓶尻橋～内谷橋間でコサギ、コガモ♂2♀2、カルガモ7、シジュウカラなど(陶山和良)。

さいたま市西区 大宮花の丘農林公苑

◇4月2日、サシバ(右上写真)、南西方向から東方面に飛んで行く。カルガモ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、カワセミ、コゲラ、カケス、シジュウカラ、メジロ、ツグミ、スズメ、ハク

セキレイ、アオジなど。4月3日、カルガモ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、オオタカ、カワセミ、アカゲラ、カケス、シジュウカラ、ツバメ、ウグイス、メジロ、ツグミ、ハチジョウツグミ、ハクセキレイ、セグロセキレイなど(嶋田富夫)。



さいたま市岩槻区 平林寺

◇4月2日、赤坂沼の林からオオタカの声。アカハラの囀りも聞こえた(鈴木紀雄)。

伊奈町 小室

緑のトラスト保全第13号地周辺

◇4月2日、メジロ、シメ、コゲラ、エナガ、アカゲラ4、ヤマガラ29、オナガ、オオタカ、ジョウビタキ、アオゲラ、ウグイス、シロハラ、アオジ、ツグミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ヒバリ、キジ、コジュケイなど。上空にダイサギ、カワウ。日本薬科大学裏門の桜並木でニュウナイスズメ10。国際学院高等学校グラウンドの桜でニュウナイスズメ6。近くではキビタキがあちこちで囀っていた(村越百合子)。

上尾市 堤崎

◇4月6日、埼玉県立大宮北特別支援学校東側斜め後の水田上空でヒメアマツバメ6、近くの浅間川にてコサギ3、ダイサギ2。ヨシ原からオオヨシキリ(村越百合子)。

蓮田市 黒浜

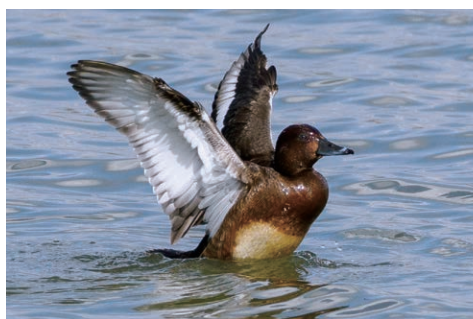
◇4月7日、上沼でカルガモ、コガモ、カイツブリ、アオサギ、チュウサギ、オオバン、オオタカ、ハヤブサ、カケス、オナガ、ツグミ、スズメなど(長嶋宏之)。

◇4月10日、耕作地でタヒバリ約20。既に夏羽の個体も見られた。黒浜中学校近くでハイタカがすぐ近くの木にとまるもすぐに飛び去る。上沼でカワセミ2の追いかけ合い。4月15日、水の少し入った耕作地でコチドリ5と

イカルチドリ2と一緒にいた。体の大きさ、体に対する脚の長さ、黄色のアイリングの目立ち具合、嘴の長さ、目周辺の黒色の濃さ、採餌するときの動き方など、よく比較できた。4月27日、ムナグロ30+がぐるぐる飛び回った後着地。上沼南側のヨシ原でオオヨシキリ（鈴木紀雄）。

川越市 伊佐沼

◇4月7日午後、メジログモ♀1（下写真）。県内では比較的珍しいと思われる（瀬尾桂一）。



行田市 さきたま古墳公園

◇4月8日、シジュウカラ、ヒバリ、ツグミ、ジョウビタキ、シメ、ホオジロなど（長嶋宏之）。

さいたま市緑区 見沼自然公園

◇4月11日、池でシマアジ♂2♀1。よく眠っていた（鈴木紀雄）。

◇4月13日、シマアジ♂2♀1。3羽並んで寝ていたが、午後3時頃、真ん中の♂が隣の♂を嘴で攻撃し、追い出す（下写真）。追われた方の♂はすぐに戻って来たが、少し離れた所に留まる。他にヒドリガモ、コガモ、カルガモ（藤原寛治）。



◇4月14日、シマアジ♂2♀1（鈴木 功）。

北本市 北本自然観察公園

◇4月12日。コジュケイ、コガモ、カイツブリ

（抱卵中）、ダイサギ、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ウグイス、メジロ、アオジなど（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区 膝子

◇4月12日、草地からウズラの声。チョウゲンボウ2飛翔、ツグミ、コチドリなど。4月27日、オオヨシキリ2ヶ所で囀る。チョウゲンボウ♂1飛翔、コチドリ2など。ウズラは確認できず（鈴木紀雄）。

草加市 柿木町 そうか公園 (53396636)

◇4月14日、クロジ♂1。4月20日、ツミ♂若鳥1、エゾムシクイ2+、センダイムシクイ1、クロツグミ♂1♀1、アカハラ♂1、キビタキ♂1。4月29日、イカル1、センダイムシクイ（声）、キビタキ（声）（鈴木 功）。

さいたま市岩槻区 本町

◇4月22日、新しいマンション屋上の縁で囀るイソヒヨドリ1。5月2日、ビル屋上に飛来するイソヒヨドリ1（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区 府内

◇4月22日、ビル屋上で囀るイソヒヨドリ1（鈴木紀雄）。

さいたま市 北区

◇4月27日、日進町2丁目のうねうね公園の隣のマンション屋上でイソヒヨドリ1。約20分後、東大成町2丁目、旧中山道沿いのゲームセンター屋上でイソヒヨドリ1。どちらもよく通る美声で囀っていた（大塚純子）。

伊奈町 栄

◇4月29日、水田周辺でムナグロ10、コチドリ5、イカルチドリ2、コサギ5、ダイサギ3、アオサギ3、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ツバメ、ヒバリ3など。上空でカワウ。サイクリングコース近くのヨシ原でオオヨシキリ、セッカ、ホトギス（村越百合子）。

表紙の写真

カモ目カモ科マガモ属アメリカヒドリ

越谷市の瓦曽根溜井には、冬季に入ると毎年のように飛来するそうです。私にとっては初めての出会いでした。

小松雄一郎（東京都）



行事案内

要予約 と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に氏名・住所・電話番号などを記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーやベテラン会員たちが望遠鏡で見せてくれます。**体調を整えてご参加ください。**



コガモ(石原和子)

参加費：中学生以下無料、会員100円、一般200円。

持ち物：健康保険証、筆記用具、雨具、飲み物。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合、正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。**厳冬期のため、防寒対策を忘れずに！**

※「見どころ」などについて、より詳しい情報が会のHP「今月の探鳥会」に載っています。

千葉県船橋市・

ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会

期 日：**1月11日(土)**

集 合：午前9時30分、ふなばし三番瀬海浜公園バス停留所付近

交 通：武蔵野線南浦和7:50発、西船橋で総武線8:42発に乗換え、船橋8:45着、京成バス9:00「船橋海浜公園行」、終点下車

※京成バス乗り場は京成船橋駅付近

担 当：菱沼(一)、浅見(徹)、佐久間、佐野、杉本、菱沼(洋)

見どころ：埼玉県内で見られない、ミヤコドリ、ミュビシギを観察します。

春日部市・内牧公園探鳥会

期 日：**1月12日(日)**

集 合：午前9時15分、アスレチック広場前・第一駐車場

交 通：春日部駅西口、朝日バス③番乗り場から「春日部エミナス行」8:41発で、「共栄大学入口」下車、徒歩約7分

※帰路は上記バス停発13:07、14:47

担 当：石川(敏)、青山(美)、青山(洋)、佐野、中村(直)、長野、橋口、別井、三好

見どころ：斜面林、屋敷林、田んぼなどで小鳥を探します。今季の冬鳥の出方はどうなっているでしょうか？

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期 日：**1月12日(日)**

集 合：午前9時10分、自由広場駐車場

交 通：秩父鉄道 熊谷発8:44発、または寄居8:32発に乗車、「ひろせ野鳥の森」下車、徒歩5分

解 散：11時半頃にゴルフ場横道路荒川入口

担 当：茂木、大畑、関口、高橋、千島

見どころ：冬の真っ最中、冬鳥たちが待っています。上空の猛禽にも注意しましょう。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期 日：**1月13日(月・祝)**

集 合：午前8時45分、中央エントランス駐車場

交 通：東武日光線で柳生8:10着、遊水地への標識に従って中央エントランスへ

担 当：佐野、木村(雅)、野口、別井、山本(恵)、山本(巧)

見どころ：谷中湖・東橋までの往復コースで冬鳥を探します。ミコアイサ、ベニマシコ、チュウビなどを期待します。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期 日：**1月16日(木)平日**

集 合：午前9時、さいたま水族館前休憩舎

交 通：羽生市福祉バスの手子林・三田ヶ谷ルート(ムジナもん号)を利用、東武伊勢崎線羽生駅東口8:04発→南羽生駅

8:21発→「キヤッセ羽生・水郷公園」
下車

※帰路:上記バス停14:50

共 催:羽生水郷公園管理事務所

担 当:相原(修)、相原(友)、新井(巖)、関
口、長嶋、別井、細田、茂木

見どころ:オオジュリンやベニマシコ、ヨシガモ、上
空のタカ類を探しましょう。

松伏町・まつぶし緑の丘公園探鳥会

期 日:1月18日(土)

集 合:午前9時、まつぶし緑の丘公園北駐車場

交 通:東武せんげん台駅東口から茨急バス
「大正大学入口行」8:30発で「新川西」
下車、進行方向へ300mで公園北側
入口

担 当:佐野、石川(光)、橋口、富田(英)、富
田(由)、長野、山部

見どころ:冬鳥を探してゆっくりと園内を一周しま
す。水辺ゾーンではカモやカイツブリが
間近で見られます。

板倉町・渡良瀬遊水地ヤング探鳥会

期 日:1月18日(土)

担 当:廣田

※詳細は12月中旬に当会HP・SNSに掲載

さいたま市・三室定例探鳥会

期 日:1月19日(日)

集 合:午前9時、さいたま市立浦和博物館前

交 通:北浦和東口バスターミナルから東武バ
ス①番乗り場「さいたま市立病院行」8
で終点下車

後 援:さいたま市立浦和博物館

担 当:須崎、青木、浅見(健)、浅見(徹)、菅
野、楠見、小菅、小林(み)、富田(英)、
富田(由)、中橋、畠山

見どころ:年々環境が変わっていますが、探せ
ば冬鳥達はしっかり環境適応してい
ます。芝川沿いを中心に歩きたいと思
います。

深谷市・仙元山公園探鳥会

期 日:1月19日(日)

集 合:午前9時、深谷駅南口ロータリー

解 散:仙元山公園

担 当:大畑、新井、小渕、関口、高橋、千鳥

見どころ:唐沢川で水鳥、仙元山では森林性の
鳥を探します。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期 日:1月25日(土)

集 合:午前9時、公園管理事務所付近ベンチ

交 通:大宮駅東口⑦番バス乗り場8:20発
「浦和学院高校」行で「締切橋」下車
※バス停からご案内します。

担 当:小林(み)、浅見(徹)、菅野、富田
(英)、富田(由)、森本

見どころ:池のカモを観察した後、隣接するさぎ
山記念公園とその周辺でツグミ類やホ
オジロ類を探します。

ご 注 意:昼食持参をお薦めします。

上尾市・丸山公園探鳥会

期 日:1月25日(土)

集 合:午前7時50分、丸山公園南口入口付近

交 通:上尾駅西口③番バス乗り場から尾32
「西上尾第二団地經由リハビリセン
ター行」7:26発で「丸山公園入口」下
車、徒歩約5分。

解 散:11時30分、多目的広場付近

担 当:瀬尾、秋葉、浅見(健)、近藤、柴田、千
葉、永野、村越、山下、吉原(早)

見どころ:冬鳥を中心にキツツキや小鳥の混群に
期待します。

狭山市・入間川定例探鳥会

期 日:1月26日(日)

集 合:午前9時、西武新宿線狭山市駅西口、
公衆トイレ前

交 通:西武新宿線本川越8:41発、または所
沢8:39発に乗車

解 散:正午頃、稲荷山公園

担 当:長谷部、石光、金井、小林(ま)、佐藤
(久)、瀬尾、中村(祐)、山口、山本(真)

見どころ:耳をすませば冬鳥たちの声。あれは何
だっけ、アオジそれともカシラダカ?

長瀬町・長瀬探鳥会

期 日:1月26日(日)

集 合:午前9時40分、秩父鉄道 長瀬駅前。

交 通:秩父鉄道 御花畑8:57発、または寄居
9:15発(熊谷8:44発)に乗車

担 当:井上、小林(み)、佐久間、佐野

見どころ：駅から蓬莱島公園まで歩きます。赤い鳥・青い鳥に会えたらいいな。

久喜市・久喜菖蒲公園探鳥会

期 日：1月30日(木)平日
集 合：午前9時、久喜菖蒲公園駐車場。
交 通：宇都宮線久喜駅西口から、大和観光バス1-1(久喜菖蒲工業団地循環)「管理センター行」8時16分発で「久喜菖蒲公園」下車、徒歩約2分
担 当：別井、木村、中川、長嶋、三好、吉原(俊)、吉原(早)
見どころ：昨年はカモ類7種、カンムリカイツブリやアカハラ、アトリ、オオジュリン等も出ました。今年は何がみられるかな？

所沢市・狭山湖探鳥会

期 日：2月1日(土)
集 合：午前9時30分、西武狭山線西武球場前駅前
解 散：正午頃、堤防北詰め
担 当：石光、金井、小林(ま)、呉、佐藤(久)、持丸
見どころ：群れを成すカンムリカイツブリやカモ類を主に、冬鳥をたっぷり観察します。

北本市・石戸宿ビギナー探鳥会

要予約

期 日：2月1日(土)
集 合：9時、北本自然観察公園・埼玉県自然学習センター玄関前広場
交 通：北本駅西口から「北里大学メディカルセンター行」バスで「自然観察公園」下車
募集人数：20名一般可、当会HPで1/4から受付開始
担 当：長野、青木、近藤、佐野、富田(英)、富田(由)、吉原(早)、吉原(俊)
見どころ：数多くの冬鳥が待っています。ビギナーでも観察しやすい鳥を中心にご案内します。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期 日：2月2日(日)
集 合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前
交 通：浦和駅東口①番バス乗り場から「東川

口駅北口行」8:37発で「念仏橋」下車
担 当：伊藤、菅野、須崎、手塚、中橋、野口、藤田
見どころ：2月は芝川第一調節池の一番の見頃。多くの水鳥や猛禽類に期待です。
ご 注 意：コースの途中にトイレはありません。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期 日：2月2日(日)
集 合：午前9時、北本自然観察公園・埼玉県自然学習センター玄関前広場
交 通：北本駅西口から、「北里大学メディカルセンター行」バスで「自然観察公園前」下車
担 当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、秋葉、大畑、近藤、柴田、関口、千葉、永野、山本(恵)、吉原(早)
見どころ：ルリビタキ、ベニマシコなど常連。トラツグミが見られたらラッキーです。

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期 日：2月2日(日)
集 合：午前8時40分、東武東上線武蔵嵐山駅西口、または午前9時15分、県立嵐山史跡の博物館駐車場
※博物館駐車場は博物館利用者専用
交 通：東武東上線川越8:00発、または寄居8:12発に乗車
解 散：正午ころ都幾川桜堤公衆トイレ付近
担 当：千鳥、新井、今村、関口、中村(豊)、持丸、山本(恵)
見どころ：イカル、シメ、シロハラ、河原でクサシギ、ノスリも飛ぶでしょう。

さいたま市・大宮市民の森探鳥会

期 日：2月8日(土)
集 合：午前9時、宇都宮線土呂駅東口。または午前9時20分、市民の森入口前(土呂駅東口から徒歩約5分、駐車場あり)
担 当：青木、浅見(健)、浅見(徹)、小林(み)、近藤、千葉、富田(英)、富田(由)、三好
見どころ：見沼たんぼ北側を巡る探鳥会です。ツグミ、シメなどの冬鳥、運が良ければクイナにあえるかも。初心者歓迎です。

宮城県石巻市・北上川河口・南三陸町
志津川湾探鳥会

要予約

期 日：2月8日(土)～9日(日)
集 合：岩槻駅東口、8日午前6時45分集合・
出発
交 通：往復貸切バス(中型)を利用
解 散：岩槻駅東口、9日午後9時頃解散
費 用：45,000円(宿泊費、バス代、昼食代等)
過不足の場合は当日清算
定 員：24名、日本野鳥の会埼玉会員優先
(最少催行人数は18名)
申し込み：**当会HPで12/1受付開始**
担 当：入山、佐野
見どころ：北上川河口でオオワシを探します。志
津川湾では観光船によるクルーズを予
定しています。
そ の 他：2名1部屋(夫婦・親子は同室)

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期 日：2月9日(日)
集 合：午前9時10分、自由広場駐車場
交 通：秩父鉄道 熊谷8:44発 または寄居8:
32発に乗車、ひろせ野鳥の森駅下車、
徒歩5分
解 散：11時半頃 ゴルフ場横道路荒川入口
担 当：大畑、新井、関口、高橋、千鳥、茂木、
山本(恵)
見どころ：猛禽に小鳥や水鳥、冬は大麻生のハ
イシーズンです。

さいたま市・岩槻文化公園探鳥会

期 日：2月11日(日・祝)
集 合：9時10分、岩槻文化公園国道16号側
駐車場
交 通：東武岩槻駅東口から朝日バス「しらこ
ぼと水上公園行」で「村国入口」下車、
徒歩5分
担 当：長野、青山(美)、青山(洋)、石井
(健)、石川、内田、鈴木(紀)、鈴木
(庸)、長嶋、藤原
見どころ：林、水辺、ヨシ原をまわって、アオジ、シメ
などの冬鳥を探します。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期 日：2月13日(木)平日
集 合：午前8時45分、東武伊勢崎線
花崎駅南口階段下、集合後徒歩で現

地、または午前9時、加須はなさき公園
管理事務所前

交 通：東武伊勢崎線春日部8:11→久喜8:30
→花崎8:37、宇都宮線大宮7:53→久
喜8:15で東武伊勢崎線乗り換え
共 催：加須はなさき公園事務所
担 当：茂木、相原(修)、相原(友)、石川
(敏)、長嶋、別井
見どころ：青毛堀川沿いから園内まで歩き、水辺
でカモ類、林にツグミやカワラヒワなど
冬鳥を見つけます。上空の猛禽類にも
注意。

狭山市・智光山公園探鳥会

期 日：2月14日(金)平日
集 合：午前9時40分、公園管理事務所前
交 通：西武新宿線狭山市駅西口から、9:08
発、西武バス「智光山公園行」で終点
下車
担 当：石光、小林(ま)、佐藤(久)、山本(眞)
見どころ：毎年思わぬ出会いを楽しめた年一回
の智光山。どんな珍客に会えるかな?

さいたま市・秋葉の森総合公園探鳥会

期 日：2月15日(土)
集 合：午前9時30分、公園内管理棟付近
交 通：西大宮駅バス乗り場から西大02「わく
わくランド行」9:02発で「秋葉入口」下
車、又は、大宮駅西口⑧番乗り場から
大65「リハビリセンター行」8:35発で「秋
葉入口」下車、徒歩約15分
解 散：11時30分、集合地付近
担 当：瀬尾、青木、今村、浅見(健)、浅見
(徹)、石塚(敬)、近藤、千葉、村越、藤
田、山下
見どころ：身近な冬鳥や留鳥を丁寧にじっくり観
察します。植物にも目を向けます。
ご 注 意：帰りは下車したバス停から11:58発(大
宮駅)、12:14発(西大宮駅)

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期 日：2月16日(日)
集 合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前
交 通：北浦和東口バスターミナルから東武バ
ス①番乗り場「さいたま市立病院行」8
で終点下車
後 援：さいたま市立浦和博物館

担 当：小林(み)、青木、浅見(健)、浅見(徹)、菅野、楠見、小菅、須崎、富田(英)、富田(由)、中橋、島山
見どころ：真冬ですが、鳥たちの世界では繁殖期が始まっています。さえずり始めたのは？すでにペアになっているのは？

志木市・柳瀬川探鳥会

期 日：2月16日(日)
集 合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅西口
スーパーサミット前円形広場
解 散：正午頃、旧村山快哉堂付近
担 当：鈴木(秀)、神場、志村、中村(治)、中村(祐)、藤澤、持丸、山口、山下
見どころ：川の右岸を志木市役所まで、冬鳥、イカルチドリ等を探し、猛禽も期待。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期 日：2月16日(日)
集 合：午前9時20分、坂東大橋南詰近くの「つきみ荘」北側
交 通：本庄駅北口、国際十王バス「伊勢崎行」9:07発、「坂東橋南詰」下車、徒歩3分
担 当：大畑、新井、小淵、関口、高橋、千島
見どころ：坂東大橋周辺は猛禽類が多く、河畔林では小鳥、利根川では水鳥もたくさん見られるでしょう。

千葉県・銚子漁港・浮島探鳥会

要予約

期 日：3月1日(土) 雨天決行
集 合：春日部駅東口、午前7時集合・出発
交 通：往復貸切バス(中型)を利用
解 散：春日部駅東口、午後8時頃
費 用：12,000円(バス代・昼食代等)過不足の場合は当日清算
定 員：24名、日本野鳥の会埼玉会員優先(最少催行人数17名)
申し込み：当会HPで1/1より受付開始
担 当：入山、佐野、藤沢
見どころ：銚子漁港ではカモメ類の識別の勉強。帰路は、浮島でチュウビの斟入りを観察します。

探鳥会で図鑑やグッズを販売します

事業部



事業部では、探鳥会で日本野鳥の会の図鑑やグッズ類を販売しています。ただ、持ち運べる商品は限られています。BIRD SHOPのカatalogなどでご入用の品がありましたらご相談ください。通販より送料880円分は節約になるところがあります。

■ 主なお勧め品

野鳥観察ハンディ図鑑『新・山野の鳥』『新・水辺の鳥』 最初の図鑑として或いはベテランの方には散歩のお供に。2冊をまとめる「一括ブックカバー」や鳴き声を収録したCDもお勧め。

『フィールドガイド日本の野鳥』イラスト図鑑の決定版。肩掛けホルダーも残りわずか。

ポケット図鑑『新 日本の昆虫1900』(1) (2) 旧『日本の昆虫1400』がパワーアップ。

その他にも、紙ファイル(ジシギ図鑑・ツバメ図鑑・シマフクロウセット)、里山の野鳥メモ帳、刺繍しおり、タオルハンカチ、野鳥シールなど。

■ 販売している主な探鳥会

年末のカレンダーシーズンは各地で。それ以外には羽生水郷公園、さきたま古墳公園、石戸宿、加須はなさき公園など。

担当者の高齢化もあり、販売する探鳥会が減っています。お手伝いいただける方をお待ちしています。





行事報告

2月10日(土) さいたま市 大宮市民の森

参加:47(会員29)名 天気:晴

カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、コサギ、ヒメアマツバメ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ(26種) 出現鳥は珍しい鳥こそいないものの冬鳥勢ぞろいという感じで、担当者としてはホッとする探鳥会であった。(青木正俊)

2月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加:32(会員26)名 天気:晴

カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、オオタカ、コゲラ、アオゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、アトリ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、イカル、ホオジロ、カシラダカ、アオジ(35種) 大麻生駅前を出発し、荒川土手の上を歩く。河川敷にはモズ、ジョウビタキ、シジュウカラ、アトリ、シメ、イカルなど。荒川に出るとカモ3種、アオサギ、ダイサギ、カイツブリがいた。カワウ、オオタカが飛んだ。野鳥の森の池まで歩いて解散。(茂木幸蔵)

2月12日(月祝) 狭山市 智光山公園

参加:31(会員29)名 天気:快晴

コジュケイ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、アトリ、カワラヒワ、シメ(29種)(番外:ドバト、ガビチョウ) スタート直後、コジュケイが群れて道を横断。全般に鳥影が薄く、中でもひょうたん池が特定外来植物・

オオフサモに覆われているせいかカモ類が種・数ともに少なく残念だったが、植物園でアトリの群れに出会えて盛り上がった。

「年ごとに 当たり外れの 多ければ 出会えて嬉し 群れ飛ぶアトリ」(石光 章)

2月14日(水) 加須市 加須はなさき公園

参加:21(会員16)名 天気:快晴

キジ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、バン、オオバン、ハイトカ、コゲラ、モズ、オナガ、ミヤマガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、セツカ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、アトリ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ(35種)(番外:ドバト) まず青毛堀川へ向かい、カルガモ、オオバン、コガモ、モズ、カシラダカを観た。公園内に戻るとカワラヒワが舞い、シジュウカラ、エナガ、コゲラの混群も出て、上空をハイトカが飛んだ。ミヤマガラスも15羽程遠くで舞っていた。締めくくりはオナガが数羽。(茂木幸蔵)

2月17日(土) 上尾市 丸山公園

参加:41(会員33)名 天気:曇後晴

コジュケイ、マガモ、カルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ハイトカ、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、ハヤブサ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、キクイタダキ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ(亜種ハチジョウツグミを含む)、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、カシラダカ、アオジ(36種)(番外:ドバト、ガビチョウ) コース説明のため案内板まで移動中、見慣れぬツグミで足が止まる。ハチジョウツグミ第1回冬羽と推定。その後も好調で、ホタルの里ではキクイタダキ、ヒガラ、カケス、アオゲラ他。時間不足で後半は短縮ルートに。それでも、アカゲラ、キセキレイ等、順調。(瀬尾桂一)

2月17日(土) さいたま市 岩槻文化公園

参加:22(会員19)名 天気:晴

ヒドリガモ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ダイサギ、オオバン、イソシ

ギ、トビ、ノスリ、コゲラ、アカゲラ、モズ、カケス、ミヤマガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、アカハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、シメ、カシラダカ、アオジ(35種)(番外:ドバト) 最初の水場と村国池では苦戦するが、散策の森にさしかかると2月としては珍しくウグイスの囀りを聞けて一同びっくり。さらにアカゲラのメスを全員でじっくり見ることができた。テストコースの帰りには竹林の中で餌を探すシロハラのオスを間近で観察。

(長野誠治)

2月18日(日)	さいたま市	三室地区
参加:34(会員29)名	天気:晴	

コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、オオタカ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ(28種)(番外:ドバト) 春の気配に誘われて、ホオジロは木の天辺で、ヒバリは高く舞い上がって囀り続ける。そして、帰路についた芝川土手で、オオタカが頭上中高度に飛来。翼と腹が白く輝き美しい! 芝川にカモの姿が見えなかったのはオオタカのせい?

(浅見 徹)

2月18日(日)	志木市	柳瀬川
参加:27(会員24)名	天気:晴後曇	

オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、イカルチドリ、イソシギ、ユリカモメ、トビ、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ(38種) 川の浚渫で中州が消え、護岸工事も進み、イソシギ・キセキレイが少ない。イカルチドリは、少し上流の玉砂利の場所に移っていた。タヒバリは河岸の草に紛れて見つけ難い。オオバン・カワウが多くダイサギ・コサギも増加。カワ

セミが何度もダイブする姿を見せた。ユリカモメが飛来し、ヨシガモやオカヨシガモも姿を見せた。

(鈴木秀治)

2月25日(日)	本庄市	坂東大橋
参加:16(会員14)名	天気:曇後雨	

キジ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、カワアイサ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、イカルチドリ、トウネン、トビ、ノスリ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ(34種)(番外:ドバト、ガビチョウ) 途中から雨。土手から電線のチョウゲンボウ、畑のキジを見て河原へと進む。カワアイサが待っていてくれた。流木にハヤブサが止まり、中洲にイカルチドリ、トウネンがいた。雨でじっくり鳥を探したり、確認したりする余裕がなかったが、カワアイサ♂♀が見られたことで良しとしよう。

(新井 巖)

3月2日(土)	千葉県	銚子漁港
参加:37(会員37)名	天気:晴	

オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、クロガモ、カイツブリ、アカエリカイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、ヒメウ、カワウ、ウミウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、クロサギ、オオバン、イソシギ、ミツユビカモメ、ウミネコ、カモメ、ワシカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ミサゴ、トビ、ノスリ、カワセミ、チョウゲンボウ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ツグミ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ(48種) 漁船の水揚げ日に当たらなかったのかカモメの数はやや少なかった。第2漁港の堤防や千人塚でカモメや海鳥を観察した。その後移動した第3漁港では、ミツユビカモメを間近でじっくり観察できた。昼食は昨年と同じ一山いけすで。窓の外にはおこぼれに与りたくてウミネコが待機していた。だけど、ユリカモメはどこに行ったのかな?

(入山 博)



連絡帳

計 報



1992年6月から
1998年6月までの
間、当会3代目の
支部長としてご尽
力くださった松井
昭吾さん(さいたま
市)が、9月7日
(土)逝去されまし
た。同月11日(水)、
指扇の斎場にてご

家族でお別れを惜しまれました。

1930年(昭和5年)1月1日生まれ、94歳。

「昭和5年1月1日生まれなので、ショウゴと名付けられた」とのお話と、「白頭ワシ」と呼ばれるのがお気に入りでした。ご冥福をお祈りします。

なお、本誌2020年1月号で松井さんの特集が組まれています。HPでは是非ご覧ください。

- ②総会資料準備中。
- ③総会での担当(議長、書記等)選出。
- ④山部代表退任後、新代表の補佐役として副代表に就任する案を承認。

[普及部]

前回(9/15)以降当日までの探鳥会開催状況を報告。

10/19渡良瀬遊水地探鳥会は、直前に知らされたトライアスロン大会開催のため、急遽中止。当会ホームページでのPR、当日会場での案内などで対処した。

[調査部]

9月15日、東京大学農学部キャンパスで開催された日本鳥学会2024年大会において、三好正幸調査部員が、埼玉県内のカモ科調査につき発表し、カモの個体数の動向と平均気温について話をした。

[事業部]

カレンダーの販売状況について報告。

その他、編集部、IT委員会。関東ブロック協議会関連の報告。

役員会を開催

10月20日(日)16:00~17:00、事務所集合+オンライン参加で、役員会を開催。

各部の報告

[事務局]

- ①令和7年1-2月の探鳥会計画案につき、メールでの臨時役員会(10/15-18)を開催して承認。

編集後記

猛暑の夏が去ったと思ったら、もう寒い冬。ニュースを見れば世界各地で大雨洪水と大旱魃。異常気象が身近に迫ってくる。長い地球の歴史の中で、こんなことは異常でも何でもない、ちょっとしたくしゃみ、揺らぎの様なものと言う人もいるが、果たしてこの先どうなることか、SDGs 間に合ってくれ。(浅見)

しらこぼと 2024年11-12月合併号(第467号)

発行人 日本野鳥の会埼玉代表 山部直喜 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460

郵便振替 00190-3-121130 URL <https://www.wbsj-saitama.org>

編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org

住所変更などの連絡は gyomu@wbsj.org またはTEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635
〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル (公財)日本野鳥の会会員室へ

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。